

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

第19回「クレジットカードは危ない？」

後藤滋樹
goto@cfi.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

ひさかたの光のどけき春の日に……と大学の研究室でのんきに荷物を片付けていた私に、突然自宅から電話があった。のどかな春の日は、その瞬間に終わった。

【身に覚えがない出費】

あなた、3月にイギリスでカードを使ったの？ 日本円で60万円も利用記録にあるわよ。
えーっ、それは変だなあ。イギリスにはずいぶん行ってないし、そのカードは日本でも使っていないはずだよ。
でも、この金額が口座から引き落とされると書いてあるわ。それじゃ急いでカード会社に電話するよ。引き落としを止めてもらわなきゃ。

【インターネットですって】

もしもし、(中略)という次第なので、その引き落としは止めてもらいたいのですけども。
わかりました。ご本人も家族の方も利用した覚えがないということですね。それでは当社宛に調査依頼票を出してください。それが引き落としの期日に間に合えば止められます。それじゃFAXで急いで用紙を送ってください。記入して返送します。でも、何で私が利用したことになるんだろう。その利用記録に記載されている日にはイギリスに行っていないよ。この種のトラブルは通信販売での利用が多いのです。ところで、お客さんはインターネットをお使いですか。このカードを使って注文をしたことがあるとか。
はい。インターネットはよく使っていますし、ホテルの予約をするのに電子メールでカードの番号を送ったこともあるなあ。どこかで番号を知られたのではないのでしょうか。カードの番号はデタラメに数字を並べても真似はできません。お客さんの名前と番号を知っている人がいると思われます。

【アメリカの銀行ならばチェックできる】

あーあ。疲れちゃった。カードの利用料金が自動引き落としというのは危ないなあ。アメリカの銀行のときには、まずカードの利用明細が届いて、それに合致する金額のチェック(小切手)を自分でカード会社宛に切る。その段階で不審な利用記録の金額を除外すればよいのだ。

私はアメリカに1年間しか住んでいなかったが、その当時の銀行口座は今でも外国人として継続している。だから銀行口座のレポートが毎月届く。預金通帳がなくて、レポートに目を通す仕組みになっている。

私の米国の口座は、年に数回の学会費の支払いをする程度だ。毎月のレポートはとて簡単である。あれれ。今月は妙な引出があるなあ。なんだこれは、375ドルが2度も引き出されているぞ。いかん。これは銀行のミスだ。銀行のホットラインに電話しなければ。

【お客さんシンガポールドルですか】

もしもし、(中略)という次第なので、この引出は実行のミスだと思われます。
お客様の名前と口座番号を教えてください。
あのねー。私は日本から電話をしているんですよ。FAXで問い合わせができるとうれしいのだけれども。
—キーボードを操作するカシャカシャという音—
あ。わかりました。いつもご利用をありがとうございます。
その記録では、375ドルが3月28日と4月2日に2回引き出されていますよね。その前月のレポートには3月20日に375ドルの入金があるでしょう？ それは私がシンガポールの学会から送ってもらった小切手を預金したのですよ。
確かに記録では、そのようになっています。ミスターゴトウ。で、その小切手は大手のシンガポール開発銀行(DBS)の振り出しのものです。それを預金したのに、逆に私の口座の残高が375ドル減ったことになるでしょう？ それは変だよなあ。
あ。それはシンガポールドルの小切手ではありませんか。そうだったかなあ。米ドルのような記憶もあるけれども。こちらで換算を間違えたために、いったん入金したのを取り消すために引き出したようです。レポートと一緒に紙が入っていましたか？

そういえば4月24日の日付で預金するという緑色の紙が入っていました。

あなたの月間レポートの期間は3月26日から4月23日までとなっていますね。

そのとおりです。ということは、4月24日の入金は今回のレポートに反映されていないのですか。

正解です。次回のレポートにご不審があれば、また電話をお掛けください。

はい。そうします。(ひとりごと)でも日本から電話をして、もう7分も経ってしまったのだよなあ。

やれやれ今月は金難の相だった。実際に被害がなくてよかったものの、しづ心なく花の散るらむ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp